

『譯語類解』と『方言類釋』の比較  
——朝鮮語の注記に関して

金 銀姬

Comparison of 『yakugorui kai』 and  
『hougenruisyaku』  
For note of Korean language

Yinji Jin

摘要

《方言类释》的词汇是根据《译语类解》的词汇而编成的。本论文将比较两本书的词汇的朝鲜语部分的注释。从而举出《方言类释》根据《译语类解》的具体例子。

通过比较，明显可以看出《方言类释》的注释多以朝鲜文字出现。而《译语类解》的注释多以汉字与朝鲜文字混合出现。这与两本书的使用对象不同有关。

18世纪是朝鲜统治阶级—两班阶级的地位动摇瓦解的时期。随着资本主义经济的萌芽和发展富农阶层开始崛起，他们对于文化的要求也逐渐上升。《方言类释》的出现正是在这种背景下产生的。而《方言类释》的出现也促进了朝鲜国际商业的发展。

## 目次

はじめに

1. 『譯語類解』と『方言類釋』について
2. 両書の見出し語の注記の比較
3. 経済による富農層の決起と支配階級の没落
4. 朝鮮文字の変化史
5. まとめ
6. 参考資料

## はじめに

『方言類釋』の見出し語は『譯語類解』の見出し語を依拠にしたことはすでに他の発表で述べた。本論文では両書の見出し語の注記の比較を通して『方言類釋』の朝鮮語の注記は『譯語類解』の注記を参考し、補充説明を加えたことを具体的な例をあげて明らかにしていきたい。また、『譯語類解』に比べて、注記がほとんど朝鮮語になっている『方言類釋』は使用されている人々が違うことを18世紀の朝鮮の状況に合わせて述べて行く。

## 1. 『譯語類解』と『方言類釋』について

### ①『譯語類解』について

司譯院が編修し刊行した書類の中では「類解」と言うものがある。漢学の『譯語類解』、清学の『同文類解』、蒙学の『蒙語類解』、倭学の『倭語類解』がその代表である。類解とは語彙を天文・時令などの部門に分けて、それを解釈したという意味である。これは非常に簡単な語彙集の一種で外国語の学習によく使われている。四学の「類解」の中で漢学の『譯語類解』が一番早く刊行したと記載されている。

『訳語類解』には序跋などがないが、『通文館志』の「什物」の條に『訳語類解板』として、其の下に次のような註がある。

康熙壬戌老峰閔相國、令院官慎以行、金敬俊、金指南質問於漢人文可尚・鄭先

甲修正、至庚午令院官鄭昌周・尹之興・趙得賢捐財刊板「即ち本書の編纂は康熙壬戌（1682年）に企図され、慎以行、金敬俊、金指南等が漢人文可尚、鄭先甲等に質問しそれを修正し康熙庚午（1690年）に至って出版されたものである」。

『訳語類解』は

天文、時令、気候、地理、宮闕、官府、公式、官職、祭祀、城郭、橋梁、学校、科挙、屋宅、教閲、軍器、佃漁、館訳、倉庫、寺觀、尊卑、人品、敬重、罵辱、身体、孕産、氣息、動靜、禮度、婚娶、喪葬、服飾、梳洗、食餌、新属、宴享、疾病、医薬、卜筮、算数、争訟、刑獄、売買（以上上巻）、珍寶、蠶桑、織造、裁縫、田農、禾穀、菜蔬、器具、鞍轡、舟舡、車輛、技戲、飛禽、走獸、昆虫、水族、花草、樹木、瑣説（以上下巻）

など六十余種の部門に分け、各見出し語の下には朝鮮文字で左と右に分けて『洪武正音訳訓』の発音転写（正音）と当時の中国で実際に発音されている音（俗音または近俗音）の転写を記している。見出し語毎に○がつけているが、この○の下にはその見出し語に対する朝鮮語を記してある。○の下には偶に◎がつけて補充説明をした場合もある。

## ②『方言類釋』について

『方言類釋』は韓国語、中国語、清語（満洲語）、蒙語、倭（日本語）語の五つの言葉の対訳語彙集で、洪命福などが正祖二年（1778年）に編纂した四巻二冊からなっている筆写本である。『方言集釋』又は『方言輯釋』で知られているが、原冊の名前は『方言類釋』である。この本の見出し語は中央に漢字で示し、その直下にハングルで朝鮮語を附し、さらにその下に「漢（中国語）」、「清（満州語）」、「蒙（モンゴル語）」、「倭（日本語）」をそれぞれハングルで注記し、五ヶ国語対訳語彙集の形をとっている。

『方言類釋』の編纂経緯は徐命膺の序によく表れている。

「我国西通中州（中国の河南省）北隣清蒙 南連倭蠻 使盖来往幾乎無年不相接 故国廷設置司譯院 肄習漢清蒙倭之方言 且以壬辰兵燹李梧里元翼 李月沙 廷龜善漢語 克稱專対之責 故復選年少文臣 課講以為常 然四国方言今已不古

殆有甚於楊子雲之閩中言 故平時雖勤於講習及與四國人相接 率不得措一辭 夫何故所習非所用也 上之二年戊戌既撰奎章韻瑞 復命臣率舌官洪命福等 博采漢清蒙倭之方言今時所用者 分門彙類 以我國諺文釋之 且附以中州鄉語 名曰方言類釋」

朝鮮半島は中国、清、蒙、倭の言葉を使っている国々に囲まれて、往来も多い故、司訳院を設置してこれ等の方言（四方の言葉）を習得してきたが、方言の変化によって、四方（漢語、清語、蒙語、倭語）の人達と交流がスムーズに行かなくなったため、正祖二年に訳官洪命福などに命じて当時周辺諸国で使用されている四つの言葉の方言（諸国の口頭語）を分類して、韓国語で訳を付けたのである。

『方言類釋』は『奎章韻瑞』と一緒に献上されたが、朝廷は多忙で、その四年後も刊行できなかったため、筆写本として残こられている。徐命膺の序に

「是書與韻瑞同時進獻 而自戊至于今四年之間 朝廷多事尚未有刊布有命 然苦刊布有命 則是書真諺相雜 其為校對比他書尤難 故用綱目三編之例 取副本編入於剩簡以為後考焉 達城徐命膺謹書」

と書かれたことから分かる。

『方言類釋』は天文、時令、地輿など87個の部門に分け、5191個の見出し語からなっている。この中には「中州郷語」（中国の河南省の方言）という項目も含まれている。『方言類釋』は『譯語類解』、『譯語類解補』、『蒙語類解』、『蒙語類解補』、『同文類解』、『倭語類解』などを整理、補充したものと考えられる。

## 2. 両書の見出し語の注記の比較

『譯語類解』と『方言類釋』は同じ見出し語が多いということは論文『『譯語類解』、『倭語類解』、『方言類釋』の見出し語の比較』で述べてある。編纂された時間が『譯語類解』が『方言類釋』より百年ほど早いことから、後者は前者によった可能性があると言える。

しかし、同じ見出し語であるが、それに関する注記は全く同じであるのではない。『方言類釋』は『譯語類解』の中の漢語で注記された部分を朝鮮語に直し、棒線「|」で注記をした部分を朝鮮語で補充するなど朝鮮人にとってより詳しく、分かりやすくした。

本論文では同じだとみられる見出し語の注記の中で『方言類釋』が『譯語類解』を解釈、補充した部分を三種類に分けて分析する。

① 注記の漢字部分を朝鮮語に訳した例

表 I は同じ見出し語に対する『譯語類解』の注記と『方言類釋』の注記を比較したものである。ここでは主に、『譯語類解』中の漢字或いは漢字とハングルで注記した部分を『方言類釋』中では朝鮮語文字に直した見出し語を対象とする。

表 I

見出し語	『譯語類解』	『方言類釋』
日頭壓山	히山에 거디다	히산에 거지다
天河	銀河	은하슈
天鼓鳴	天動ㅎ다	우리ㅎ다
年終	歲末	세말
拜年 {拜節 (上全)}	歲拜	세빅
{元宵} 上元 (上全)	正月 보름	정월보름
重陽	九月九日	구월구일
臘八	臘月初八日	남월팔일
龍	龍소순디	농소순디
內裡 {內府 (上全)}	大關	通稱대궐
內苑裡	大關後苑	대궐후원

金 銀姫 『譯語類解』 と 『方言類釋』 の比較

東宮	太子겨신디	태즈계신궁
正門	가온댓門	가온댓문
擺班	班列셔다	반렬셔다
班齊	班列整齊ㅎ다	반렬정제ㅎ다
受朝	朝會밧다	조회밧다
免朝	朝會아니밧다	조회아니밧다
影壁	大廳後板牆	문마조반담
卯簿	公座簿	공좌부
畫卯	公座簿 에 일흠두다	공좌부의 일흠두다
發放	公事出令ㅎ다	공스출녕ㅎ다
掛榜	榜거다	방거다
告示	榜부티다	고시
查看	相考ㅎ다	사획ㅎ여보다
宣諭	皇帝닐으시느말슴	신하의게효유 ㅎ느전지
詔書	天下에알외시느글월	조서
勅書	臣下에알외시느글월	칙서
令旨	太子와諸王의말슴	태즈스명
懿旨	皇后入命	황후스명
冊封	皇后以下封ㅎ느글월	황후이하봉ㅎ느글월
表文 {表章(上全)}	皇帝의엿줍느글월	임금스기엿줍느글월
箋文	太子와諸王의 엿줍느글월	태즈스게엿줍느글월
奏本	皇帝의公事로 엿줍느글월	인아니티고들이는 글월 68
說帖	小錄	쇼록
批判	猶判下	제스ㅎ다

拜帖 {禮帖 (上全)}	名銜	명함
文官	東班	문관
武官	西班	무관
奠幣	幣帛드리다	폐백들이다
飲福	福酒먹다	음복하다
城壕	城밧흔즈	성밧흔즈
外羅城	外城 28	외성
甕城	문 ㄱ리온曲城 28	문 ㄱ리온곡성
烟墩	{火+烽} 火니뛰오논	봉화스니뛰오논디
口外	口子밧	구즈밧
舉人	舉子	향시에 섰인사름
考官	試官	시관
封彌官	封흔느官員	봉흔느관원
膳錄官	글벗기느官員	글벗기느관원
黃榜	科舉入榜	과거스방
中舉 {應舉 (上全)、 中科 (上全)}	及第하다	급제하다
下第	科舉디다	과거디다
第一甲	科舉一等	과거일등
解元	鄉試狀元	향시장원
頭踏	前排戲子	전배희즈
廚房	飲食달오논집	음식달오논집
廂房	翼廊	좌우익랑
天窓	우러리窓	우러리창
門扇	門뺨	문뺨
教場	習陳흔느디	습진흔느디
作隊	隊짓다	대짓다

豎旗	旗세우다	기세우다
搞賞	軍士賞주다	군스상주다
腰刀	長劔	환도
順刀	短劔	단검
刀斗	軍中晝炊夜擊之器	도두
漁戶	漁父	어부
上糧	穀食바티다	곡식밧치다
佛殿	法堂	불던

(その他は省略。見出し語が二つ以上並べられているが、これは『譯語類解』の中で同義語を表す語彙で、大括弧を付けている。)

表Iから分かるように『譯語類解』の注記は漢字或いは漢字と朝鮮語文字が混ざっている。例えば「天河」の注記は「銀河」、「年終」の注記は「歲末」、「卯簿」の注記は「公座簿」、「發放」の注記は「公事出令하다」、「豎旗」の注記は「旗세우다」、「上糧」の注記は「穀食바티다」などである。ということは注記の中の「銀河」、「歲末」、「公座簿」、「旗」などの漢字が何を表しているかは読んでいる人たちには分かっているか或いは文章の中でそのまま使う可能性が高い。『方言類釋』はこれらの漢字を朝鮮語に直した。

「銀河」→「은하수」、「歲末」→「세말」、「公座簿」→「공좌부」、「公事出令」→「공스출녕」、「旗」→「기」、「穀食」→「곡식」。

『譯語類解』の注記は漢字と朝鮮文字を混ぜて解釈を完成するものが多い。しかし、『方言類釋』の朝鮮語の注記の部分には「通称」、「俗称」など以外はすべて朝鮮語の文字で解釈されている。

『譯語類解』の注記の中の漢字を『方言類釋』で朝鮮語に直した例を集めると表IIのようになる。



表Ⅱ

山	산	銀河	은하수	朝會	조회
天動	우리	歲末	세말	公座簿	공좌부
歲拜	세빔	正月	정월	公事出令	공스출녕
九月九日	구월구일	臘月初八日	납월팔일	榜	방
龍	룡	大闕後苑	대궐후원	皇后	황후
太子	태조	門	문	皇帝	임금
班列	반렬	整齊	정제	小錄	쇼록
名銜	명함	幣帛	페빅	{火+傘} 火	봉화
東班	문관	城	성	口子	구즈
西班	무관	曲城	곡성	試官	시관
官員	관원	科擧	과거	鄉試狀元	향시장원
飲食	음식	及第	급제	前排戲子	전배희즈
翼廊	익랑	窓	창	習陳	습진
長劔	환도	軍士賞	군스상	隊	대
短劔	단검	漁父	어부	旗	기
穀食	곡식	經	경	香	향
得道	득도	蔭陽	음양	醫員	의원
法堂	불단	淸盲	청맹	花娘	화냥이
大人	대인	姓	성	字	즈
肝	간	未嫁女	미가녀	已嫁女	이가녀

(その他は省略。)

『譯語類解』を編纂する時期には漢語の見出し語を朝鮮語に解釈する時、漢語、朝鮮語混用の形を取ったことから、注記の中の漢語は読まれる人には分かるはずである。そのゆえ、これらの漢字語は最も人々に知られている、基本的な語彙だとみられる。『方言類釋』は混用中の漢字語も朝鮮語文字で表し、朝鮮語文字の普及を表してくれる。

② 注記の「|」を朝鮮語に訳した例

表Ⅲは『譯語類解』中「|」で注記されている部分を『方言類釋』中、朝鮮語文字で補充した例を表している。

表Ⅲ

見出し語	『譯語類解』	『方言類釋』
日蝕		일식
月蝕		월식
來月		리월
寒食(清明(上全))		한식
端午		단오
七夕		칠석
冬至		동지
印		인
聖旨		황제서명
咨文		조문
回帖		회첩
神主		신주
烟臺		연대
鄉試		향시
會試		회시
狀元		장원
皇帝		황제
皇太子		황태자
開倉	ㅎ다	개창ㅎ다
念佛	ㅎ다	념불ㅎ다
道士		도사
袈裟		가사
虞祭		우제
卒哭		졸곡

小祥		소상
大祥		대상
禪祭		담제
紗帽		사모
頭巾		두건
頂子		딩즈
朝服		조복
孫子		손즈
養子		양즈
接客		접객
藥村		약지
元告		원고
強盜		강도
寶貝		보뎁
珊瑚		산호
琥珀		호박
瑪瑙		마노
琉璃		류리
水晶		슈정
玳瑁		대모
菜豆		녹두
燈臺		등디
鳳凰		봉황
孔雀		공작
鴛鴦		증경이
水獺		슈달
蝗虫		황충이

金 銀姫 『譯語類解』と『方言類釋』の比較

鯉魚		니어
洪魚		홍어
民魚		
銀魚		은어
海參		해삼
青魚		청어
蓮子		년즈
葵花		규화
菊花		국화
金錢花		금전화
梅花		매화
木蓮花		목년화
黃楊木		황양목
桂樹		비슈나모
花梨木		화리목
可憐	허다	가련 허다
分明	허다	분명 허다
仔細	허다	즈셔 허다
收拾	허다	슈습 허다
正朝		정초

(その外は省略。見出し語が二つ以上並べられているが、これは『譯語類解』の中で同義語を表す語彙で、大括弧を付けている。)

『譯語類解』の中には「|」で注記を付けた見出し語が177個ある。この「|」の数は見出し語の文字数と対応してある。例えば見出し語「印」の注記は「|」一つ、見出し語「状元」の注記は「|」が二つ、見出し語「皇太子」の注記は「|」三つになっている。「|」は見出し語そのままを表していると推測される。つまり、「印」に対応する「|」は「印」を、「状元」に対応する「||」は「状元」を、「皇太子」に対応する「|||」は「皇太子」を表す。その中で、

名詞を表す語彙はそのまま、動詞を表す語彙は「漢字+ㅎ다」の形をとる。「|」線で注記を表したのはおそらくこれらの二つの原因を考えられる。一つは当時これらの語彙に対応する適切な朝鮮語が見つけなく、文章の中では朝鮮文字とともに漢字そのまま使われた可能性だと、もうひとつは『譯語類解』の相手にする利用者はすでに漢字語の意味が分かる、しかし『方言類釋』の相手にする利用者は漢字語の意味が分かりにくいという可能性だと思われる。

例：日蝕→日蝕　月蝕→月蝕　皇帝→皇帝（名詞を表す場合）

開倉→| |ㅎ다　吐→|ㅎ다（動詞を表す場合）

『方言類釋』では『譯語類解』中「|」で表している部分を朝鮮語に直した（共有する見出し語に限る）。『譯語類解』は見出し語の発音を正音（洪武正韻譯訓、四聲通解から伝えてきた音）と俗音（当時実際使われた発音）に分けて記しているが、『方言類釋』はその俗音の発音をとって、朝鮮語文字で表したと思われる。これは15世紀「訓民正音（朝鮮語文字、現在はハングルと呼ぶ。）」の誕生によって朝鮮語文字の使用と、漢字だけ使われた時代から朝鮮語文字が段々漢字語の代わりに使えるようになる過程をみせてくれる。

### ③ その他は

表Ⅳは大体『譯語類解』の注記の漢字語と、それを見出し語としている『方言類釋』の朝鮮語の注記を比較している。

表Ⅳ

『譯』での見出し語	『譯』での注記	『方』での見出し語	『方』での注記
參兒	參星	參星	삼성
五色雲彩	五色구름	彩雲	오식구름
朝裡	朝會맞는디	太和殿	조회맞는던
說婚	議婚ㅎ다	說親	의혼ㅎ다
大大公	高祖父	高祖	고조
大大婆	高祖母	高祖母	고조모

洪魚	洪魚	鯢魚	홍어
火籠	{火+音}籠	{火+共}籠	비룡
指甲草	鳳仙花	鳳仙花	봉선화

朝鮮文字の「訓民正音」は創製初期、ただ漢字の発音を表すために使われたもので、中華思想に支配された両班ら男性知識人はこれを諺文と呼んで蔑み、李氏朝鮮末期まで正規の文字として使われることはなかった。しかし李朝末期には民衆の文字として下層階級、婦女の間に若干広まった。庶民はこの文字を使い詩や歌を記録し、また私文書に使用した。知識人の中にもハングルを使う者が現れ、朝鮮王朝文学の最高峰とも呼ばれる『春香伝』などが書かれた。

『方言類釋』はほとんどの注記が朝鮮語文字になっているため、使用できる範囲が『譯語類解』より広く、支配階級である文人だけではなく、商人を含む庶民たちにも使えるようになった。

### 3. 経済による富農層の決起と支配階級の没落

李氏朝鮮王朝後期の18世紀、19世紀には商人階級の勃興と富の蓄積、また両班の地位を金で購入することなどが広まり、朝鮮の商業は大きな進歩を見せた。李氏朝鮮末期に至っても物々交換が中心であり、交易は、中国との朝貢貿易、対馬を介した日本との交易、琉球との交易が中心であった。中国の朝貢貿易の主力は朝鮮人参、貂皮、海獺皮、昆布、日本から輸入した銀などであり、代わりに塩・生糸・絹織物などを輸入していた。

16世紀末と17世紀中盤に起きた壬辰倭乱と丙子胡乱をたどりながら封建体制の権威は甚大な打撃を受けた。そして生産力が発達して商品貨幣経済が発展しながらその基盤が揺れ始めた。17,18世紀頃には農地を離れて他人の仕事をして労賃を受ける人々が現れる。イギリスのような国では産業革命が起き、資本家らが大量の労働者を雇用して機械制生産が本格化していた時

期に、朝鮮は封建制度が動揺しながら資本主義と賃金労働の芽が芽生えていた。

朝鮮封建体制を動揺させたのは農村生産力の発展であった。二大戦争をした後農民層では営農方法の発達と商品作物栽培拡大で富を蓄積した富農層が現れる。かれらは伝統的な両班地主とは違い、生産性を増加させ、労働力を節減し、耕作地所有と商品の取り引きを広めた。かれらは影響力を拡大しながら両班土豪や官吏の収奪に対抗したり、両班身分を買い入れたり、両班、地主と結託して農民らを収奪した。以前まで朝鮮社会はひたすら両班、地主が支配者で永らく君臨してきたが、富農層という新しい経済的強者が現れて両班階級と共存して行くことになった。

このように各分野の生産力が発達するということによって都市人口と商品需要は大きく増大し、商品の取引が活発になった。過去官の独占と特権で支配した市場秩序は崩れ、各種民間零細商人が営む乱戦が発達しはじめた。この中で中国、日本と貿易をしたりソウルと地方をつなぐ巨大商人が現れて商圏を拡大していった。商人資本が形成されて行ったのである。結局朝鮮王朝は官が主導する商取引政策を廃止して税金を受ける個人商業を認めることになった。これに伴い、下では零細商人、実子産業資源層、都市貧民の商業活動と慰労は巨大資本を持った商人らの活動は国家権力が支配する特権商業体系の代わりをすることになった。

このように商品の取引が活発になると、朝鮮王朝は円滑な商品流通と国家財政の安定のために17世紀後半「常平通宝」という金属貨幣を作って流通させた。一方では貨幣の流通は高利貸のような方法を通じて貨幣を蓄積するなどの支配層の収奪を強化させたし、他の一方では富農や金持ち商人による投機売店を促進させて農民層の分解を加速化させた。そして貨幣はそれを持ってない両班層には没落を、下層や平民らにはそれを通した身分上昇を可能にすることによって伝統的な身分秩序や価値体系を急速に崩壊させた。

両班階級の没落は偽家系図の盛んからもみられる。朝鮮時代の両班階級とは官途に就く階級とたたえられる。文臣と武臣の官途に就いた人々の家族は

すべて両班階級である。彼らの後裔は官奴や賤民に転落しない限りずっと両班の身分を保つ。そこに必要なのが自分の姓氏と家系図である。本貫がある明らかになっている姓氏から身分が保障される証拠として家系図があるのである。

朝鮮朝英祖（1694年～1776年）時にはたくさんの家系図が作られただけでなく、『朝鮮王朝実録』によると偽家系図事件も起こった。18世紀には偽家系図の作りが盛んに行われた。これは両班階級が実権を掌握する制度が崩れ始める証拠である。

このような背景の元で作られた『方言類釋』は、漢字を使用する支配階級の両班達のためではなく、身分が段々上昇する富農層、つまり商人達のために作られた対訳語彙書であることが分かる。

#### 4. 朝鮮文字の変化史

文字の使用状況から朝鮮をみると、大きく四つの時期に分ける。最初は漢字のみを使っていた15世紀中ごろまで、次は漢字と朝鮮語文字を併用しながらも公的な文字は漢字であった19世紀末まで、さらに朝鮮語文字が民族の文字として意識され漢字とハングルの混用が一般化した1945年まで、最後にハングルの比重が増し漢字の使用が少なくなる現在に至る時期になる。

##### 第一時期

これまでの研究では、15世紀中ごろにハングルが作られるまで、朝鮮半島には独自の文字は存在しなかったとみられている。それまでは、記録は全て漢字を使って行われていた。中国から漢字が伝わった時期は明確ではないが、三国時代（313年～676年）には漢字漢文が使われていたという記録があり、朝鮮半島で漢字が使われた始めた時期はかなり古いのではないかと推測されている。

##### 第二時期

朝鮮朝の第四代の王・世宗（在位：1418年～1450年）は、それまで使っていた漢字漢文では自分たちの気持ちを自由に表現できないと考え、朝鮮語



を書き表す独自の文字を作るよう学者たちに命じた。その結果、1443年に「訓民正音」という新しい文字が作られた。この訓民正音が後にハングルと呼ばれる文字である。

ハングル創製以降も、漢字漢文を公式の文書とみなす考え方は依然として強く、公用文はもっぱら漢字漢文で書かれた。

### 第三時期

ハングルの創製した世宗の統治時期を除き、漢字の補助的な役割しか担っていなかったハングルが初めて国を代表する文字として認知されたのである。逆に、漢字が伝来した時代から長く続いた漢文中心の時代は終わりを告げることになった。ただし、漢字自体は漢字ハングル混用文という形でこれ以降も使われ続けた。

### 第四時期

#### ① 大韓民国（韓国）

韓国ではハングル専用→漢字混用→ハングル専用→漢字併記と何度も文字政策の変更が行われた。現在の韓国はハングル専用に近づいていると見られる。

#### ② 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

北朝鮮では、1949年に漢字の使用を廃止し、朝鮮語文字専用にすることを決めた。

本論で扱っている『譯語類解』と『方言類釋』は編纂された年代を比べると100年余りの差があるが、朝鮮語の注記の部分と比較分析すると、上で述べている第三時期に属する。また、どのような漢字語が朝鮮語文字に書き変えているのか、朝鮮文字の形はどのような変化が起きたかが分かる。

## 5. まとめ

『譯語類解』と『方言類釋』の編纂は百年くらいの年代差を持っている。『方言類釋』は『譯語類解』を参考としながら『譯語類解』で注記をしていなかった部分を補充し、漢語で注記された部分を朝鮮語に直しているなど朝鮮人に

とってより詳しく、分かりやすくした。両書の比較を通して朝鮮語が漢字のみの使用から朝鮮語文字を使うまでの部分的な段階を表してくれた。

両書の見出し語の朝鮮語の注記の比較を通して、『譯語類解』は両班など支配階級を相手として編纂されたのに比べて、『方言類釋』は商人などの富農層を相手として編纂され、被支配階級の教育に関する欲望を表してくれた。

また、朝鮮文字だけで注記をしている『方言類釋』は経済貿易の発展、商人の飛躍に促進作用を行い、その相手も支配階級だけではなく、朝鮮文字さえ分かれば使える庶民たちも含まれていることが分かる。

## 6. 参考資料

『氏族家』金丁鉉『月刊朝鮮』出所

『월간노동사회』이원보 2004년 9월제 91호

『朝鮮語学史』小倉進平著 昭和39年10月30日

『ここからわかる韓国・朝鮮の歴史Q&A』第一刷発行 株式会社 大月書店2002年8月1日

『韓国語変遷史』金東昭著 明石書店

『朝鮮史—その発展』梶村秀樹著 明石書店発行